

**本誌の表紙に使われた貴重書***An Essay on the Principle of Population*, London, 1803

マルサス 『人口論』

MALTHUS, Thomas Robert



イギリスの古典学派を代表する経済学者トマス・ロバート・マルサス（1766-1834）は、ロンドンの南にあるサリー州ドーキングで生まれ、1784年ケンブリッジ大学ジーザス・カレッジに入学した。卒業後は家に近いオールベリーで牧師補を務め、その後ジーザス・カレッジのフェローに選出された。

丁度その頃はフランス革命の影響を受けてゴドウィンやコンドルセといった急進思想家がもてはやされていて、マルサスは時事問題について父とよく討論した。父とは逆に新思想に反対する立場をとり、この討論を契機として著したのが『人口論』初版（1798年）である。

この中で、人口は人間の本能である性欲により幾何級数的に増加するのに対して、食糧は算術級数的にしか増加しないこと、そのため、自然の状態では過剰人口による食糧不足は不可避であり、このことから貧困は死亡率を高める積極的要因、悪徳は出生率を低める予防的要因となるので、過剰人口の抑止力として是認されることを述べた。これは貧困問題の解決策や貧民救済策が無意味であることを意味しており、ゴドウィンたちが提唱する理性の支配する理想社会は実現しえないことを主張するものであった。

この『人口論』は、最後に第6版が出されるまで度々改版されたが、1803年に刊行された第2版である本書と初版の間には、著しい相違点が存在する。即ち、語数約5万語の初版では、人口増加を抑制する要因として、必然的に生ずるとされた貧困及び悪徳のみを認識したのに対し、約20万語の膨大な著作となった第2版以降においては、新たに道徳的抑制の存在を認めている。この著作は人口論の独立した最初の体系的著作であり、「人口問題に関するあらゆる近代的思索の出発点」となった。

原寸 27.2X21.2cm

『洋書百選』（1972年本学図書館刊行）より抜粋、加筆

## 学生と図書館

## 図書館《私の使い方》

野中 佑佳里

皆さんは、図書館のホームページを利用されたことがありますか？たくさんあるコンテンツの中には、本や図書館に関するものだけでなく、就職活動に役立つものもあるので、これから紹介したいと思います。

「データベース検索」を開くと、「朝日新聞 聞蔵Ⅱ ビジュアル・フォーライブラリー」という項目があります。そこでは、1985年以降の朝日新聞・アエラ・週刊朝日の記事を読むことができます。キーワード欄で自分の気になる会社名を入力するだけで、過去のニュースをすばやく知ることができるので、企業研究や面接対策にとっても便利だと思います。関連語句や発行年月日など、検索対象を指定して探すこともできるので、自分の求めている記事が簡単に見つかります。ぜひ利用してみてください。

また、閲覧室には就職に関する資料が多く配架されています。新聞や参考書を活用される方は多いと思いますが、本や雑誌も利用されてみてはいかがでしょうか？この時も、ホームページで検索されるといいと思います。「就職試験・資格試験問題集DB」では、公務員・教員試験などの問題集に加え、その他様々な職種や業界について詳しく書かれた本も探すことができます。

インターネットだけでなく、図書館のホームページや資料も活用し、多くの情報を入手されることをおすすめします。

のなか ゆかり（ドイツ語学科4年次生）